

# 児童相談、虐待対応… 子どもと親の大切な人生を支えています

かみがそ  
神夏磯 保さん 大阪府職労 健康福祉支部相談所分会長(写真右)

前田 治敏さん 大阪府職労 健康福祉支部書記長(写真左)



## 一時保護所が 足りない

「児童虐待に対応できる体制整備を！」と職場の闘いを支部ニュースでよびかけています

大阪府への夜間・休日児童虐待通報件数は、受け入れ体制がスタートした2006年度に308件だったのが、2009年度は925件と3倍に増加。今年度は4倍に増えるペースで推移しています。「橋下知事は『疑いも含めて積極的な保護を』と広報に力を入れていますが、一時保護所や児童養護施設の体制



整備にも対応をするべきです」子ども家庭センターで児童相談を担当する神夏磯さんは指摘します。現在、大阪府の一時保護所は人口530万人(大阪市、堺市を除く)に、たったの1ヶ所。520万人で5ヶ所ある千葉県や、400万人で3ヶ所ある神奈川県とくらべても立ち遅れ、全国で最低レベルです。施設が満床のために、9月には28人、10月には42人も入所を断りました。府職労健康福祉支部は、当局に施設の増設と人員の増員を要求。福祉部当局も、世論と闘いにおされて、知事とのヒアリングでは一時保護所の増設と、子ども家庭センター職員の増員を要望するようになりました。

「24時間の虐待通報に対応するために、職員はローテーションで携帯電話を持ち、自宅待機をしています。深夜に通報を受けて出勤し、早朝に帰宅して、すぐにまた出勤することもあります」と前田さんは厳しい職場の実態を語ります。前田さん

も、夜中に父母と面談したり、一時保護所へ同行したりと、昼夜を分かたず現場に駆けつけることが少なくありません。

非行の子ども、接すれば  
いい表情に変わる

「仕事は大変ですが、相談に応じた親から『あなたに出会えて良かった』と感謝をされたこともありました。非行に走っている子どもでも、接しているうちに、だんだんいい表情に変わっていくこともあります。最後は『ありがとう』と言ってくださいます。うれしいことも、いっぱいありましたよ」36年間、児童福祉の仕事一筋に歩み、来年3月で定年を迎える神夏磯さんは、目を細めて仕事をふり返ります。

前田さんは、大学で福祉を学び、学生時代から一時保護所で宿直のアルバイトをするなど、早くから福祉の現場と関わってきました。職場では中堅の存在。組合では支部書記長の重責も担います。「相談に応じる時は、その子の人生にとって重要なことに関わっているんだ、という気持ちで接しています。いま抱えている問題を解決することだけでなく、その子の将来の、いい人生につながるような仕事をしていきたいですね」と抱負を語ってくれました。

## ひびけ歌声 ひろがれ平和

# 未来に向かって、きずなを強めよう!

### 第10回大阪自治労連うたごえ祭典



宇宙人も登場!? 最優秀賞に輝いた吹田市労連のステージ

「ひびけ歌声、ひろがれ平和、未来に向か  
うてきずなを強めよう」をテーマに第10回  
大阪自治労連うたごえ祭典が12月5日(日)、  
堺市の樫文化会館ホールで開催され、12単組か  
ら300人が参加。各単組から、職場・地域  
の闘いや、仕事への思いをうたごえ、に託  
して発表・交流しました。最優秀賞には吹田  
市労連、優秀賞には和泉市職労、東大阪市職  
労が輝きました。



保育所民営化、学校給食委託  
に対する闘いで生まれたオリ  
ジナル曲を歌った和泉市職労

NPJニューヨーク行動の代表団  
で派遣された青年も参加して、元  
気に歌声を披露する東大阪市職労

